

(2) 服装に関する部品

衤と補とはたいへんなちがい

衤と衤と、よく書き誤られます。たとえば、初を初と書く人がよくあります。これなど、衤と衤の意味を知り、初の意味がわかれば、決して書き誤ることなどないでしょう

衣 四年 イ ころも 衤 で、着物の上の部分の象形文字です。衤は、衣をへんにした形ですから、「ころもへん」といい。着物の意味に使われます。衤は、示をへんにしたかたちですから、「しめすへん」といい、神さまのしるしに使いますから、形は似ていても、たいへんなちがいがあります。

裳 ショウ もすそ ショウ ジョウ 尚は上で、「上に加える」意味の字です。衣を着て、その上に裳をはくのです。むかしはこれを「も」といいましたが。いまでいえばスカートです。衣と裳で、一組の着物になるので、着物のことを「衣装」というわけです。

表と裏

表 三年 ヒョウ おもて あらわす 表の間に土(𠂔で毛の象形文字)を入れた字です。むかしは、獣の毛皮を身につけ

ましたが、毛のほうを「おもて」に「あらわす」ので、毛と表とで、「おもて」「あらわす」という意味を表わしたのです。

裏 リ うち これと同じ考え方で、表の間に、里(城壁に囲まれた内がわが里なので、内がわの意味)という字を入れて、「衣の内がわ」という意味を表わしました。裡と書くこともあります。いまでは、表も裏も、衣に関係なく使います。

初 四年 ショ はじめ はじめて はつ 着物をつくるには、まず形をとって、切るこ(截断)から始めます。それで、衣と刀とで、「はじめ」という意味を表わしました。これで、初と書いてはいけないことがわかるはずですが。これでは、「神さまを切る」ことになり、さっそく罰があたって、0点です。

俵 五年 ヒョウ たわら 人の表ですから、「着物」のことですが、いまでは、人の着物を俵といわず、「人の命を養ってくれる米」を尊敬して、「米の着る着物」を俵といいます。すもうの土俵は、米俵に土が入れてあるから「土俵」というのです。

復は日に意味がある

複 六年 フク 復は、白と夂(止)で、「ものの重なる」ことを表わした部首です。つまり、人の下の日(やね)が、ほんとうの意味を表わしているたいせつな部分です。複は「布地を

重ねて作った衣」という意味で、あわせのことで、ひとえは一重ということばですが、複衣に対して単衣と書きます。単はシングル、複はダブルにあたります。いまでは、衣に関係なく、重なり合った意味で、複雑などと使います。

復 五年 フク
 複とまちがえやすいのが復です。しかし、**彳**が道のしるしですから、復は、「同じ道を重ねていく」こと。つまり、「行った道をかえる」ことです。だから、往復というように使います。

腹 フク はら
 月ツキは肉のしるしで、からだの部分の名前に使われるしるしです。腹は、「**内臓**の重なっているところ」、つまり、「はら」です。

巾はぬのきれ

巾は「ぬのきれ」の象形文字で、とてもよく使われる部首ですから、ぜひ覚えておかなければならないものの一つです。

布 五年 フ ぬの
 いまは、巾の意味に使われていますが、もとの字は巾より上等なぬののことでした。もとの字は、父と巾を合わせた**希**という字だったのです。ハが取れて**希**となったものですから、「一ノ」というように書かないで、「ノ一」という順序に書くわけです。「父ちちの使う巾ぬの」ですから、「上等のぬの」のわ

けですね。

希 五年 キ
 父と巾とを合わせた**希**という字です。父は、刺繡の象形です。ですから希は、「刺繡の飾りのあるきれいな巾」です。こういう美しい布はたくさん作れませんので、「少ない」という意味と、だれでもほしがるところから、「のぞむ」意味に使われます。希少価値・希望

長は「ながい」ではない

帳 四年 チョウ
 長は、ながい毛の老人つえが杖をついている形を表わした字です。「年長者」という意味で、「すぐれた」「りっぱだ」というのがもとの意味です。校長の長も、そういう意味で、「ながい」の意味ではありません。

長 二年 チョウ ながい
 帳は「ながい布」という意味です。商店でお金を勘定かんじょうするところに、外から見えなように長い布をはったので、これを帳場といい、この帳場で使う書きつけが、帳簿ちょうぼです。帳づらちやうづらを合わせるという、帳づらちやうづらを、漢字で帳面と書き、いまの帳面ということばができました。帳面は帳場で使うものですが、いまでは、ノートの意味に使います。

脹 チョウ
 長は、「大きくなる」「ふくらむ」意味にも使われます。脹は、「筋肉がふくらむ」「はれる」

張 五年 チョウはる
 という意味に使われます。張は、「弓をはる」ことです。弓を引き絞ると、大きくふくらむからです。

常はスカートのことです

常 五年 ジョウつね
 裳の衣が巾になった字です。もとの意味は裳と同じです。ですから、スカートのことで、女の人の平常着(ふだん着)です。それで、「つね(ふだん)」という意味に使われるようになりました。平常・日常。また、「変わらない」という意味にも使います。恒常

席 四年 セキ
 席と巾でできています。人のすわるところには布を敷くので、「人のすわるところ」を席というのです。座席

帯 五年 タイおびるおび
 むかしの人は、腰にひもをまいて、これに七つ道具をぶら下げました。これが卍です。また、別に、手ぬぐいを腰にぶら下げましたが、これが卍です。帯は、「身につける」、つまり、「身におびる」ことですが、腰にまく「おび」という意味にも使います。おびということばは、身におびる、ということばからできたことばです。

幅 フクはば
 畠は富で、「いっぱい」の意味があります。

「布がいっぱい」とは、「布のはば」のことです。副・幅・福のちがいを、しっかり覚えてください。

莫は夕ぐれの意味

莫は 𠄎と 𠄎の間に日がある形ですから、「夕ぐれ」の意味の部首です。

幕 バクマク
 昼でも、夕ぐれのように、家の中を暗くさせる働きのある巾が、幕です。幕の音は、莫(ボ)の変化したものです。

慕 ボしたう
 心は心の変形で、あしによく使われる形です。下にあるので「したごころ」と、呼ばれています。慕は、「夕ぐれの心もち」です。人が「したわしく」なるのは、よいやみ迫るころだというのは、いまもむかしも変わりありません。

募 ボつる
 「つのもり集める」ことを募集といいます。広く求めて、日のくれるまで、努力するものだから、莫と力で表わしました。有名校では、そんなに努力をしなくても人が集まりますから、「募集」というのはおかしいわけです。でも、受付に夕ぐれまでがんばってもとても終わることができないので、やはり募集ということになりますか。募などと、ぶっそうな刀を使わないように。

墓 六年 ボ
はか

これは、人生の夕ぐれです。土の中の暗
いところ、つまり「おはか」です。

暮 ぼ
くれる
くらす

莫だけで、「くれ」の意味ですが、幕・慕・
募・墓など、いろいろまぐらわしいので、「日
ぐれ」には日をつけたわけです。いまは、「年の暮れ」というようにも
使います。

糸は色を表わす

糸は、より合わせた「いと」の形を表わした字です。糸は、人間生
活にたいせつなものですから、部首としても、よく使われます。

絵 三年 カイ
エ

会は合と同じで、「あう」という意味の字で
す。糸は「色」を表わしています。ですから
絵は、「色を合わせる」ことで、つまり。「え」のことです。たくさんの色
を組み合わせて、はじめてりっぱにできあがります。

紙 二年 シ
かみ

氏はシの音を表わしています。むかしは、
絵で文字でも、絹きぬを使いました。これが紙で
す。いまでも絹を使うことがありますし、いまの紙だって、材料は
繊維せんいですから、「糸へん」でおかしくはありません。

紀 五年 キ

己は己こゝろで、糸の曲がりくねった象形です。
紀は、「糸すじ」という意味ですが、「筋道」

「きまり」という意味に使われています。

糸と細とはもとは同じ

細 三年 サイ
ほそい
こまかい

田はサイという音を表わすしるしで、形は
田と同じですが、もとは田たで、全然ちがうも
のです。

糸の音は、いまはシですが、もとはサイもシも同じ音だっ
たのです。サイがつまればシになり、シが伸びればサイになります。ロ
ーマ字の「i」がそうです。アイと発音したり、イと発音したりします。英
語のsignに、alをつけると、signalになるのと、まったく同じです。む
かしは、糸も細も、同じ発音で、同じ意味に使っていたのですが、の
ちに「いと」そのものは糸、糸の「ほそい」意味は細と使い分けるよう
になったものです。いまでは、ほそいと似た「こまかい」という意味に
も使われます。

サイ 田は頭の形です

細の田は、田たで、実は頭の形を上から見たところ
です。音は、サイとシとあることは、前にもお話したとおりです。

思 二年 シ
おも

田は「頭」の意味で、この字では、意味も音
も使われています。心は心こゝろで、心臓の象形

心 二年 シン
こゝろ

文字です。「心臓」という意味がもとの意味で、

「こころ」という意味にも使います。心臓が止まると、「こころ」の働きが止まるので、むかしの人は、思考作用は心臓にあるのだと考えたからです。思は、田(あたま)と心(心臓)とで、思考の意味を表わしました。

売には二つの意味がある

続 四年 ソク つづく
売は賣と賣との略字です。賣は、「品物を売る」ことで、賣は、「切れないように続ける」ことです。形はとてもよく似ていますが、意味はまるきり違います。続は、「糸が切れずに長く続く」という意味の字ですから、この売は賣のほうで、賣ではありません。

読 二年 ドク トク よむ
この売も、賣ではなくて、賣です。「言(ことば)がとぎれないように、つづけてよむ」ことです。だから、わからない漢字が多くあって、つかえつかえよむのは、「読む」とはいえないわけです。ドクの音は賣のなまりです。

結 四年 ケツ むすぶ ゆう
切れた糸でもむすぶと「りっぱ」に役立ちます。吉は、「士の言(ことば)」という意味の字です。「りっぱだ」という意味です。士は、一を聞いて十を知る、というような「才能のある人」という意味の字です。「りっぱな人」、ま

たは「役人」の意味に使われます。

経という字

経 五年 ケイ キョウ へる
緯の横糸に対して、これは、「たて糸」のことです。織物は、これが基になりますから、「たいせつなもの」の意味にも使います。中国では、もっとも基本となる書物を経書とかいい、仏教の大切な書物は、経文とか、お経とかいいました。このばあいの経は、「たいせつ」という意味です。経という部首は「たてに通ったすじ」という意味を持っています。

茎 ケイ くき
は草花のしるしです。草花の縦に通つた筋は「くき」です。
径 ケイ
は道のしるしですから、「まっすぐに行ける近道」という意味です。本道に対して、「せまい小道」です。円の直径は、円の中心を通るまっすぐな線です。

軽 四年 ケイ かるい
「径(みち)に沿って、まっすぐに早く走れる車」という意味で、「かるい」意味を表わした字です。「軽快」というように使います。

終 三年 シュウ おわる
冬は一年の「おわり」だから、終は「糸のおわり」という意味の字になります。つまり、「糸

どめ」「玉むすび」のことなのですが、いまは、糸に関係なく、ものごとの「おわり」の意味に使われています。

冬 二年 トウ フユ **冫**は、もと[●]ノで、氷のしるしです。夂は、退で説明したように、止の下向きの形です。

月日がだんだんと進んで、氷の張る季節になる、という意味を表わした字です。

練 四年 レン ネル **東**はいまは **東**と同じ形をしていますが、もとは[●]**東**で、[●]**東**と[●]**ハ**でできています。ハは「分ける」意味があります。「東の中からよいものをえり分ける」ことが[●]**東**です。練は「東ねたたくさんの糸の中から、選び出したりっぱな糸」という意味です。「よくねった糸」がりっぱな糸ですから、いまでは、「ねり糸」または「糸をねる」という意味に使い、「きたえる」という意味にも使います。

貝はお金のしるし

貝は137ページにあるように、象形文字です。中国大陸では、むかし貴重なものとして扱われたので、「お金」の意味に使われています。音はバイです。

買 三年 バイ カウ **罒**は、「物を集める」「手に入れる」という意味の部首です。ですから、「お金と引き換え

に、品物を手に入れる」ことを、買と書くのです。音は貝^{バイ}です。

売 三年 バイ ウル もとの形が賣であることは、191ページで述べたとおりです。**土**は、出の略字です。売は、「買った品物を出す」という意味で、商売の実際をよく表わした字ですね。この字の音も貝^{バイ}です。

貯 五年 チョ **宁**は[●]**今**で、家の中に物をたくわえる意味の部首です。音は丁^{チョウ}のつまったものです。貯は、「お金をたくわえる」ことですが、いまでは、貯水などとも使いますので、お金のばあいは、貯金というようになりました。

才は「若木」という意味

財 六年 ザイ **才**は、「木が根を張り始めた形」を表わした字です。これから大きくりっぱに成長する「^{●●}もと」を意味していますので、「素質」「能力」の意味に使います。**財**は、「働きのあるお金」という意味を表わしています。

資 六年 シ **次**と[●]**貝**でできています。資は「命の次にたいせつなお金」という意味。仕事^{●●●}のもと^{●●●}でに使うので、資本というように使われます。

賞 五年 ショウ **尚**と[●]**貝**でできています。尚は、すでに、裳[●]

●
や常で習ったように、上^{ジョウ}という意味の字です。賞は、「ほうびとして、上の人からたまわるお金(いまでいう賞金)」という意味の字です。いまは、広く「ほうび」の意味に使います。

堂 四年 ドウ ●
尚は尙^{ジョウ}で、りっぱな家の形でもあります。堂は、「土を高く積んで、その上に建てた家」、つまり、「りっぱな建物」のことです。お寺の本堂や、学校の講堂などに使われています。堂の音は尚^{ジョウ}のなまったものです。

費 四年 ヒ ついやす ●
弗は、非^ヒや否^ヒと同じで、「そうではない」という打ち消し^{ウチケシ}の意味の字です。費は、「お金がなくなる」「お金をつかいはたす」という意味です。

壬という部首

賃 六年 チン ●
賃金とは、「人としての務め(任務)に対し^{シハラ}て支払われるお金」のことです。壬は亠^ニで、「人の腹部に●をつけて、おなかに赤ちゃんがいる」ことを表わした指事文字です。壬の音は人(𠂇)です。

妊 五年 ニン ●
壬が「妊娠」の意味ですが、これに女^ニをつけたのが、妊です。

任 五年 ニン 動かせる ●
壬(妊娠)は、婦人の「人としての務め」ですから、「務め」という意味に使われます。任

務。また、それは、婦人だけにまかせられた務めだというので、「まかせる」という意味にも使います。これで、「賃金」の意味がよくわかると思います。

弋は目じるしというしるし

貸 五年 タイ かす ●
代は、「世代が変わる」という意味の字です。だから、貸は、「次の世代へおくるお金」、つまり、遺産の意味の字です。それは、「ただでゆずるお金」ですから、「ちょっとの間だけ、ただでゆずる」こと。つまり、「かす」意味になったわけです。

代 四年 ダイ かわる よ ●
弋は、地面に目じるしに立てたくい^ニの象形文字です。代は、「かわりだ^ニというしるしをもった人^ニ」という意味の字です。しるしがないと、ほんとうに代人かどうか分かりませんから。

賀 五年 ガ ●
加は、「口(ことば)の足りないところを努力しておぎなう」という意味で、口と力^ニでできています。つまり、「口をくわえる」ことです。賀は、「お金を加える」、つまり、「人にお金を

おくる」ことで、それは、自分の喜びの心を表すことを意味しています。

賛 五年 サン
 ● 夫は夫ぼうしで、帽子をかぶった「一人まえの男子」を表わした指事文字です。いまでは、夫妻・夫婦というように、「おっと」の意味に使います。● 賛は、「一人まえの男子が、ふたりもそろって、これはりっぱな貝だ、とほめたたえる」意味の字です。「ほめる」、また、「助ける」意味に使います。

責の意味は主にある

責 五年 セキ せめる
 ● 主セキは、東セキの略字です。東は、「とげのある木」で、「刺す」「せめる」意味の部首です。責は、「貸したお金を返せとせめる」ことです。これは、「当然すべきことを人に求める」ことなので、「義務」の意味にも使います。

績 五年 セキ
 ● 「糸をつむぐ仕事」です。この仕事は休みなくせめられるようにするので、責という字が使われています。また、「仕事」「できばえ」という意味にも使います。

貧分 五年 ヒンビン ますしい
 ● ● ● 分は八と刀とで物を二つに切りわけること● ● ● を表わした会意文字です。お金は分けると、● ● ● 少なくなってしまうので、分と貝とで、● ● ● 「お金の少ない」意味を表わしました。

貴 六年 キ
 ● 貴キは卑の略字です。貴は、「人が両手にいっぱい財宝を持つ」ことを表わした字で、「身分の高い人」を表わしたものです。

金 一年 キン コン かね
 ● 今キンと土キでできた字です。土は、金属が土の中にまじっていることを表わしたものです。金の音は今(キン)です。一般に、鉱物をいっていたが、のち、黄金の意味となりました。

銀 三年 ギン
 ● 良(ギン)は、「下」という意味の部首です。銀は、「金の下の金属」という意味になります。

根 三年 コン ね
 ● 木の下の部分、つまり、「ね」のことです。

恨 コン うらむ
 ● 「心の底からうらみに思う」という意味の字です。「根にもつ」といううらみ方です。

銅 五年 ドウ
 ● ● 金と同じような色つやがある金属なので、「金と同じ」という字でできました。金は黄いろっぽいので「黄金」、銅は赤みがあるので「赤金」といいます。